

1. 県政全体に関する満足度

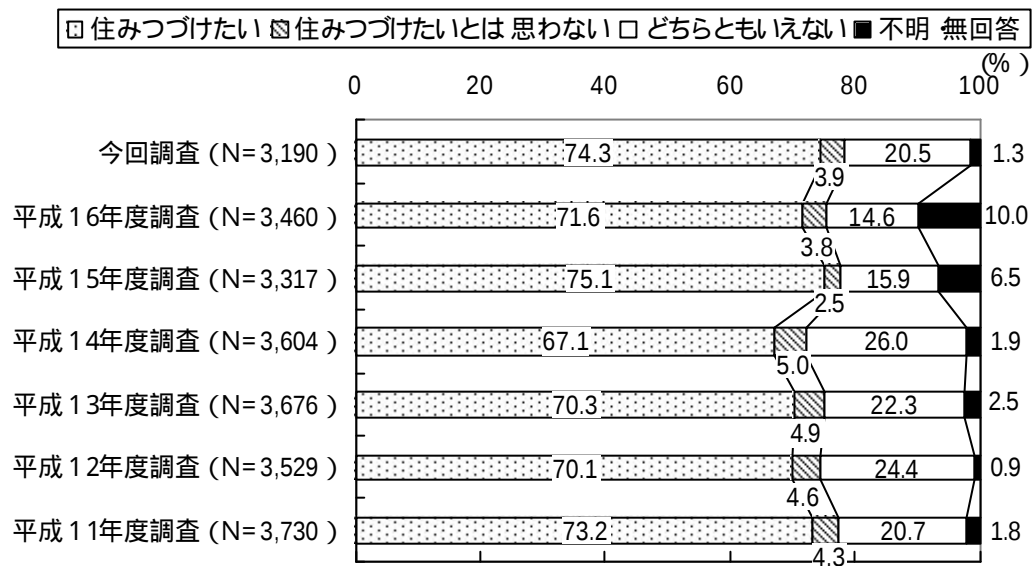
(1) 定住意向

問5 あなたはこれからも滋賀県に住みつづけたいと思いますか。(○は1つだけ)

■「住みつづけたい」が増加傾向

「住みつづけたい」が74.3%で最も多く、平成16年度調査に比べ2.7ポイント増加している。平成14年度調査以降、「住みつづけたい」は増加傾向にある。

「住みつづけたいとは思わない」は3.9%で平成16年度調査とほぼ横ばいとなっている。また、「どちらともいえない」は20.5%で平成16年度調査と比較すると5.9ポイント増加しているが、過去の調査を経年的に見ると、この項目は増減が激しくなっている。



【地域別】

全ての地域で「住みつづけたい」が最も多く、大津・志賀地域(69.4%)を除いて70%を超えている。特に湖北地域は「住みつづけたい」が84.3%で最も多い。

【性別】

男女とも「住みつづけたい」が最も多く、男性が75.4%、女性が74.2%となっている。

【性・年代別】

男女各年代ともに「住みつづけたい」が最も多く、概ね年代が上がるにつれて多くなっている。特に男性では60歳代が85.3%、70歳以上が88.6%となっており、女性では60歳代が81.8%、70歳以上が95.1%と高い割合になっている。

一方、男性の20歳代では「どちらともいえない」が40.2%で他の年代よりも多い。

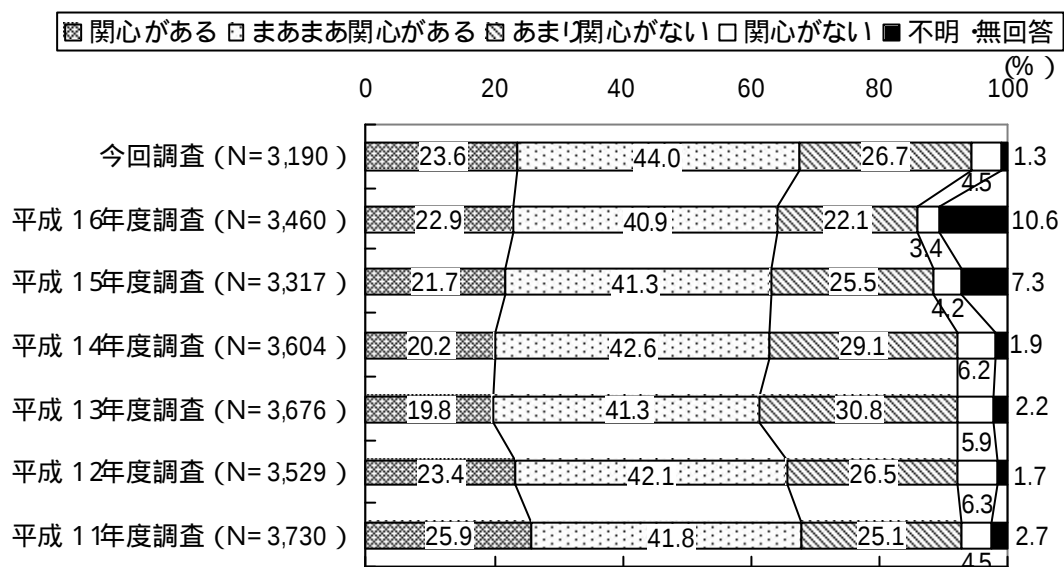
(2) 県政への関心度

問6 あなたは、県政に関心をお持ちですか。(○ は 1 つだけ)

■ 県政への関心度は、67.6%が『関心がある』

県政への関心度は、「関心がある」が23.6%、「まあまあ関心がある」が44.0%となっている。『関心がある』(「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計)は67.6%となり、『関心がない』(「あまり関心がない」と「関心がない」の合計)は31.2%となっている。

平成16年度調査と比較すると、『関心がある』は3.8ポイント増加、『関心がない』は5.7ポイント増加している。また、「不明・無回答」が9.3ポイント減少している。



【地域別】

全ての地域で「まあまあ関心がある」が最も多く40%台となっている。『関心がある』は湖西地域が最も多く76.1%、次いで甲賀地域の73.7%となっている。『関心がない』は東近江地域が34.9%で最も多く、湖西地域が21.1%で最も低い。

【性別】

男女とも「まあまあ関心がある」が最も多い。『関心がある』は男性(71.5%)が女性(65.3%)を6.2ポイント上回っている。

【性・年代別】

男性の20歳代と70歳以上、女性の20歳代と70歳以上を除き、男女各年代で「まあまあ関心がある」が最も多い。男性の20歳代では「あまり関心がない」が最も多く43.5%、70歳以上では「関心がある」が56.1%となっている。また、女性の20歳代では「あまり関心がない」が46.4%で最も多く、70歳以上では「関心がある」が35.8%となっている。

男女ともに概ね年代が上がるにつれて『関心がある』が多くなっており、最も多いのが男性では70歳以上で86.1%、女性では60歳代で80.5%となっている。『関心がない』は、男性の20歳代で60.9%、女性の20歳代で55.9%と他の年代より多くなっている。

(3) 県政に対する満足度

問7 現在の県の施策に対してあなたはどの程度満足していますか。1～51のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

下表に示す51項目について、『満足度』を調査した。

1. 「満足」
2. 「どちらかといえば満足」
3. 「どちらともいえない」
4. 「どちらかといえば不満」
5. 「不満」
6. 「わからない」

を選択肢とし、本報告書では『満足度』(「満足」と「どちらかといえば満足」の合計)と『不満度』(「どちらかといえば不満」と「不満」の合計)に着目して、分析を行った。

なお、今回の調査から新たに5項目を追加した。(新項目は下表にゴシック文字で表示。)

項 目		図表中での省略表記
環 境	1. 琵琶湖や河川などの水環境を守る取り組み	水環境
	2. 健全な大気環境の保全や地球の温暖化を防止する取り組み	大気環境
	3. 野生生物の保護など自然環境を保全する取り組み	自然環境
	4. 田園風景や歴史環境など美しいふるさとの景観づくり	景 観
	5. 身近な地域におけるみどりづくり	みどり
	6. 県民生活や事業活動による廃棄物の減量やりサイクル、環境に配慮した製品の購入など資源循環の取り組み	省資源・資源循環
	7. 太陽光発電やバイオディーゼル燃料など、新エネルギーを導入する取り組み	新エネルギー
	8. ごみのポイ捨て防止や県民生活や事業活動による廃棄物を適正に処理する取り組み	廃棄物
産 業 ・ 経 済	9. 経済振興特区や工業団地整備、産学官の連携など産業活動を活性化する取り組み	産業基盤
	10. 環境ビジネスやバイオテクノロジー、IT(情報通信技術)などの新しい産業づくり	新産業
	11. 観光の振興や観光産業づくり	観光
	12. ものづくりの人材育成や企業の技術力等の向上を支援する取り組み	競争力強化
	13. 地場産業や商店街を活性化する取り組み	地域産業
	14. 安定した雇用の確保や働きやすい環境づくり	雇用
	15. 農業や化学肥料を減らすなど環境にこだわった農業を推進する取り組み	環境こだわり農業
	16. 農業の担い手の育成や県農畜産物のブランド化を推進するなど食料を安定的に供給する取り組み	農畜産業
	17. 林業の担い手の育成や県産材の需要を拡大する取り組み	林業
	18. コーロナ、セッジミなど琵琶湖の在来魚介類を増やす取り組み	水産業
	19. 道路や鉄道などの交通基盤を整備する取り組み	交通基盤
	20. インターネットやケーブルテレビなどの情報通信基盤を整備する取り組み	情報通信
	21. 産学官連携や技術者等の育成による科学技術を振興する取り組み	科学技術

項 目		図表中での省略表記
暮らし	22. 家庭、地域、学校、職場が一体となった健康づくりの取り組み	健康づくり
	23. 病院などの医療サービスを提供する取り組み	医療
	24. 生活保護や国民健康保険の取り組み	生活安定
	25. 高齢者の介護や生きがいを支援する取り組み	高齢者
	26. 障害者の自立を支援する取り組み	障害者
	27. 子どもの保育や子育て支援、児童虐待の防止などの取り組み	子ども
	28. 地域で互いに支え合い、誰もが住みたくなる福祉のまちづくり	地域福祉
	29. 住宅、公園、下水道などの快適な居住環境づくり	居住環境
	30. 食品、水道水の安全確保や消費者を守る取り組み	消費者
	31. 洪水や土砂災害、地震などの災害に備える取り組み	災害
	32. 犯罪に遭いにくい安全なまちづくり	防犯
	33. 交通事故を防ぐ取り組み	交通安全
	34. 環境と調和する計画的な土地利用の取り組み	土地利用
	35. 都市や農山村の快適な生活環境を整備する取り組み	都市・農山村基盤
教育	36. 基礎基本の徹底や個性を伸ばす学校教育の取り組み	学校教育
	37. 家庭や地域での教育力を高める取り組み	地域の教育力
	38. 青少年の社会参加や非行を防止する取り組み	青少年育成
	39. 学校や公民館、図書館等を活用した生涯学習の取り組み	生涯学習
	40. 県立大学をはじめとする魅力ある大学づくり	高等教育
自治・文化	41. 人権侵害や差別のない人権が尊重される社会づくり	人権尊重
	42. 男女の人権が尊重され、ともに多様な生き方ができる社会づくり	男女共同参画
	43. 地域の特色を生かした魅力的なまちづくり	まちづくり
	44. ボランティアやNPOなどによる社会貢献活動への支援	市民活動
	45. 外国人との交流や国際理解など国際性豊かな人と地域づくり	国際化
	46. 貴重な歴史や文化資産の保存とまちづくりなどへの活用	歴史文化資産
	47. 文化芸術の体験機会の充実や活動支援	文化・芸術
	48. 生涯にわたりスポーツに親しむことのできる環境づくり	スポーツ
	49. 県政に関する情報の発信や公開などの取り組み	県政情報
	50. 市町合併の取り組みに対する支援	市町合併
	51. 行政経営の改善や健全な財政基盤をつくる取り組み	県政運営

なお、本報告書では、『満足度』について平成 16 年度調査との比較を行っているが、16 年度調査と今回調査における設問項目の表現がやや異なるため、参考として 16 年度調査の設問の一覧を添付する。

参考【平成 16 年度設問項目】

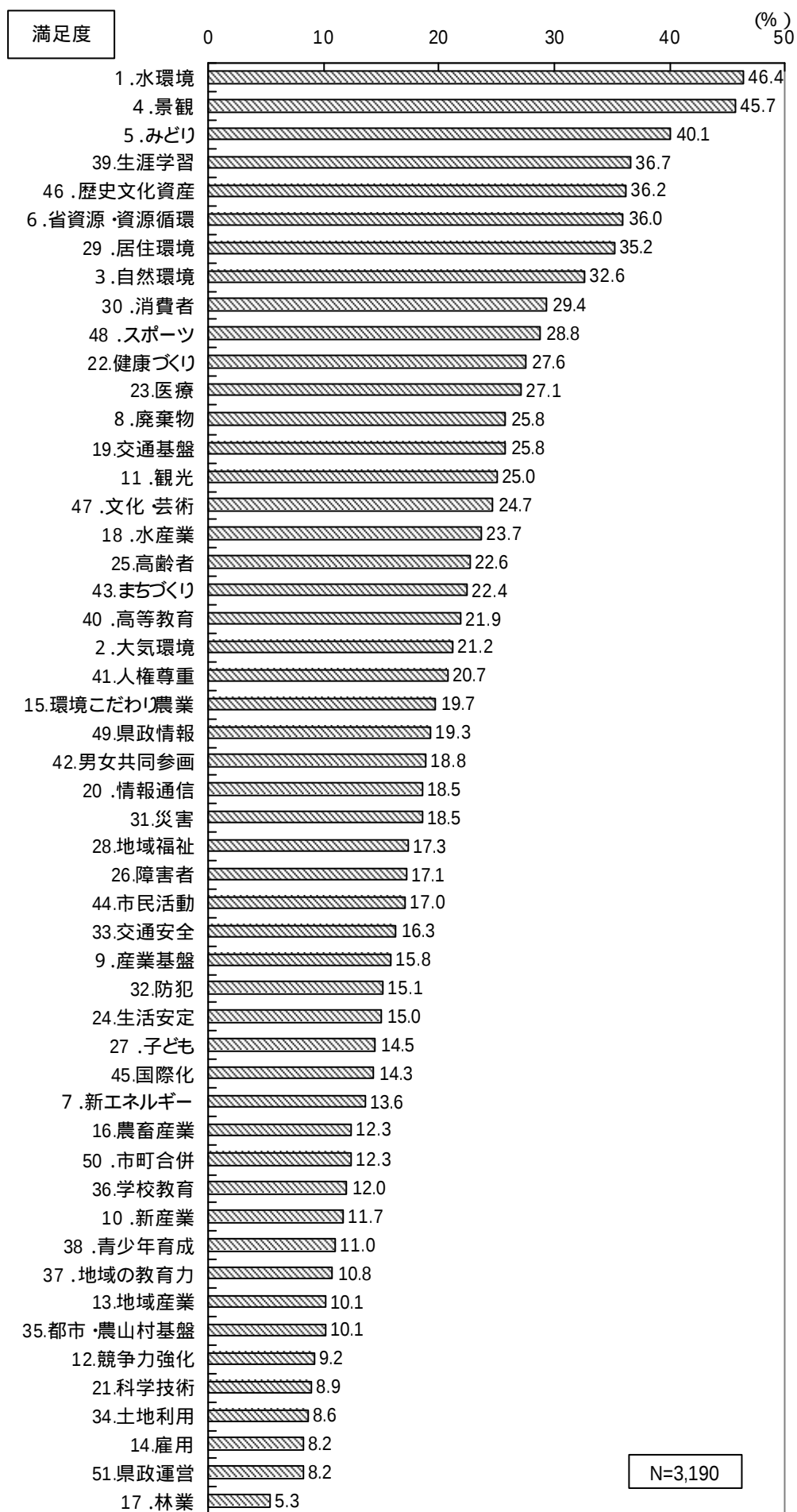
項 目		図表中での省略表記
環 境	1. 琵琶湖や河川などの水環境を守る取り組み（琵琶湖などの水環境保全）	水環境
	2. 大気環境の保全や地球温暖化防止の取り組み（大気環境保全や温暖化防止）	大気環境
	3. 野生生物の保護など自然環境の保全（自然環境保全）	自然環境
	4. 田園風景や歴史景観など美しい景観づくり（美しい景観づくり）	景 観
	5. 身近な地域におけるみどりづくり（身近なみどりづくり）	みどり
	6. 廃棄物の減量やリサイクル、環境に配慮した製品の購入など資源循環の取り組み（資源循環の取り組み）	省資源・資源循環
	7. 太陽光発電などの新エネルギー導入の取り組み（新エネルギー導入）	新エネルギー
	8. ごみのポイ捨て防止や廃棄物の適正処理の徹底（ごみの散乱防止や廃棄物処理）	廃棄物
産 業 ・ 経 済	9. 企業、大学、行政の連携や工業団地の整備など産業振興のための環境づくり（産学官連携や産業振興）	産業基盤
	10. パイオテクノロジーを活用した産業やＩＴ（情報通信技術）産業など新しい産業づくり（新しい産業づくり）	新産業
	11. 観光の振興や観光産業の創出（観光の振興）	観光
	12. 地場産業、商店街の活性化など地域産業の振興（地場産業、商店街の振興）	地域産業
	13. 雇用の安定確保や働きやすい環境づくり（雇用の安定確保）	雇用
	14. 農業や化学肥料を減らすなど環境にこだわった農業の推進（環境こだわり農業の推進）	環境こだわり農業
	15. 農産物の安定供給や担い手づくりなど農業・畜産の振興（農業・畜産の振興）	農畜産業
	16. 森林の保全や林業の振興（森林保全や林業の振興）	林業
	17. 水産資源の増殖や外来魚の駆除など水産業の振興（水産業の振興）	水産業
	18. 道路整備や鉄道の利便性向上など交通基盤の充実（交通基盤の充実）	交通基盤
	19. インターネットなどの情報通信基盤の整備（情報通信基盤の充実）	情報通信
	20. 新技術の開発や研究者・技術者の育成（新技術の開発や技術者育成）	科学技術
暮 ら し	21. 家庭、地域、学校、職場での健康づくりの取り組みの支援（健康づくりの取り組み支援）	健康づくり
	22. 身近な地域における医療サービスの提供（医療サービスの提供）	医療
	23. 高齢者が安心して生活できる環境づくり（高齢者福祉の充実）	高齢者
	24. 障害者が地域で安心して暮らし働ける環境づくり（障害者福祉の充実）	障害者
	25. 子育て支援、児童虐待の防止など子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくり（子育て支援や児童虐待防止）	子ども
	26. 身近な地域で健康福祉サービスを受けられるまちづくり（健康福祉サービスの提供）	地域福祉
	27. 住宅、公園、下水道などの計画的な居住環境づくり（計画的な居住環境づくり）	居住環境
	28. 消費者の保護や食品、水道水の安全確保の取り組み（消費者保護や食の安全確保）	消費者
	29. 洪水や土砂災害、地震などによる災害防止の取り組み（洪水、地震などの災害防止）	災害
	30. 犯罪に強いにくい安全なまちづくり（安全なまちづくり）	防犯
	31. 交通安全対策の推進（交通安全対策の推進）	交通安全
	32. 計画的な土地利用の取り組み（計画的な土地利用）	土地利用

項 目		図表中での省略表記
教 育	33.基礎基本の徹底や個性を伸ばす教育など学校教育の充実（学校教育の充実）	学校教育
	34.青少年の社会参加や非行防止など青少年の健全育成の取り組み（青少年の健全育成）	青少年育成
	35.家庭や地域における教育、生涯学習など社会教育の充実（社会教育の充実）	生涯学習
	36.県立大学をはじめとする魅力ある大学づくり（魅力ある大学づくり）	高等教育
自 治 ・ 文 化	37.人権に関する教育や啓発など人権が尊重される社会づくり（人権尊重の社会づくり）	人権尊重
	38.男女共同参画の社会づくり（男女共同参画社会づくり）	男女共同参画
	39.地域社会の活性化など地域の特色を生かしたまちづくり（特色を生かしたまちづくり）	まちづくり
	40.ボランティアやNPO活動への支援（NPO活動への支援）	市民活動
	41.外国人との交流機会の拡大など国際性の豊かな地域づくり（国際性豊かな地域づくり）	国際化
	42.貴重な歴史文化資産の保存と活用（歴史文化資産の保存と活用）	歴史文化資産
	43.芸術鑑賞や文化活動のための環境づくり（芸術文化の環境づくり）	文化・芸術
	44.スポーツに親しむ機会の充実やスポーツのできる環境づくり（スポーツのできる環境づくり）	スポーツ
	45.県政に関する情報発信と情報公開などの取り組み（県政情報発信と情報公開）	県政情報
	46.市町村合併の取り組みに対する支援（市町村合併への支援）	市町合併

『満足度』の高い施策

『満足度』が最も高い施策は「水環境」で 46.4%、次いで「景観」が 45.7%、「みどり」が 40.1%となっており、環境の分野が上位 3 位を占めた。

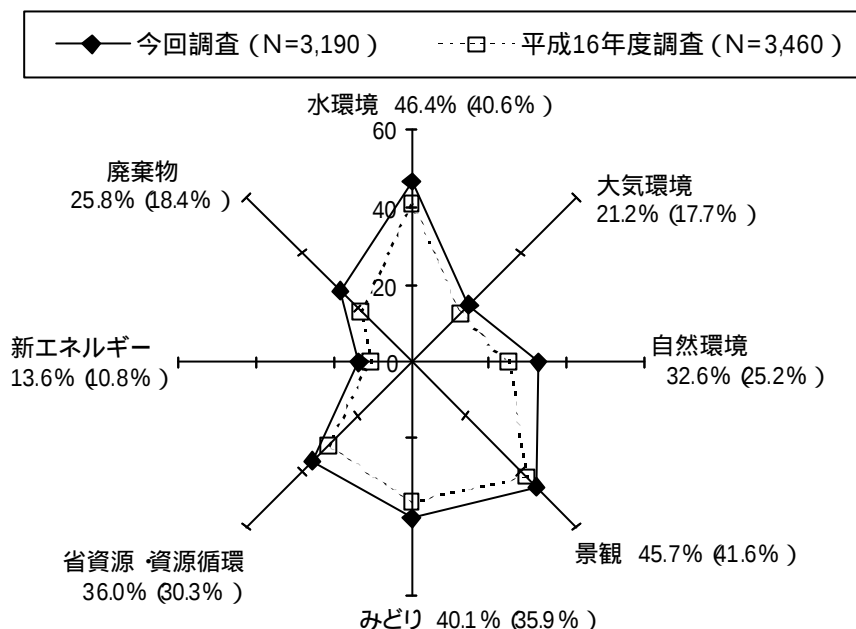
『満足度』上位 10 位の内訳は、環境の分野から 5 項目、暮らしの分野から 2 項目、自治・文化の分野から 2 項目、教育の分野から 1 項目となっている。



- 1 環境分野の『満足度』【全体平均 32.7%（平成 16 年度調査 27.6%）】

環境分野の 8 項目中、「水環境」に対する『満足度』が最も高く 46.4%、次いで「景観」が 45.7%、「みどり」が 40.1%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると、全体的に『満足度』は増加しており、主なものとしては「自然環境」と「廃棄物」が 7.4 ポイント、「水環境」が 5.8 ポイント、「省資源・資源循環」が 5.7 ポイント増加している。

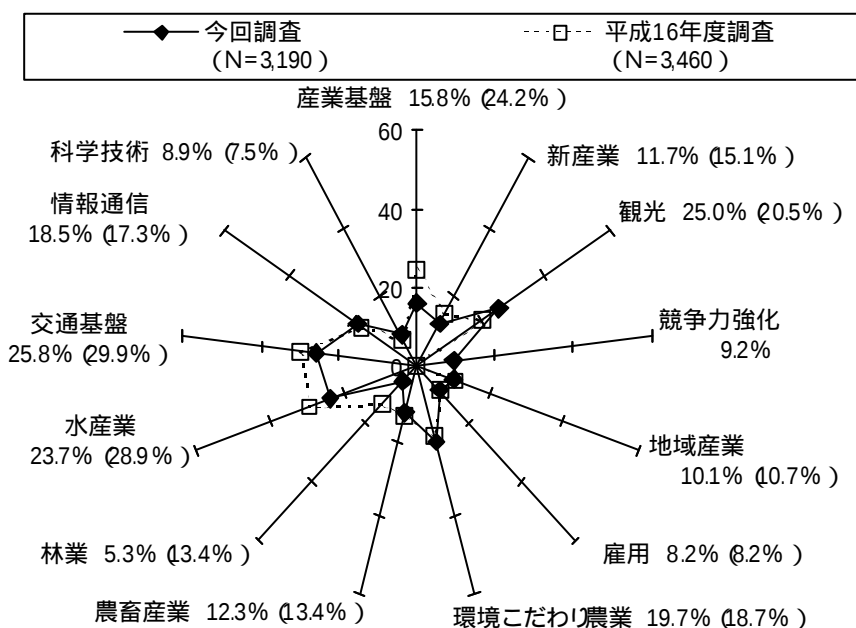


- 2 産業・経済分野の『満足度』【全体平均 14.9%（平成 16 年度調査 17.3%）】

産業・経済分野の 13 項目中、「交通基盤」に対する『満足度』が最も高く 25.8%、次いで「観光」が 25.0%、「水産業」が 23.7%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると「観光」、「環境こだわり農業」、「情報通信」、「科学技術」の 4 項目では『満足度』が増加しているが、7 項目で減少しており特に「産業基盤」は 8.4 ポイント、「林業」は 8.1 ポイント減少している。

なお、「競争力強化」は今回調査で新たに項目として追加したものであるが、『満足度』は 9.2%となっている。

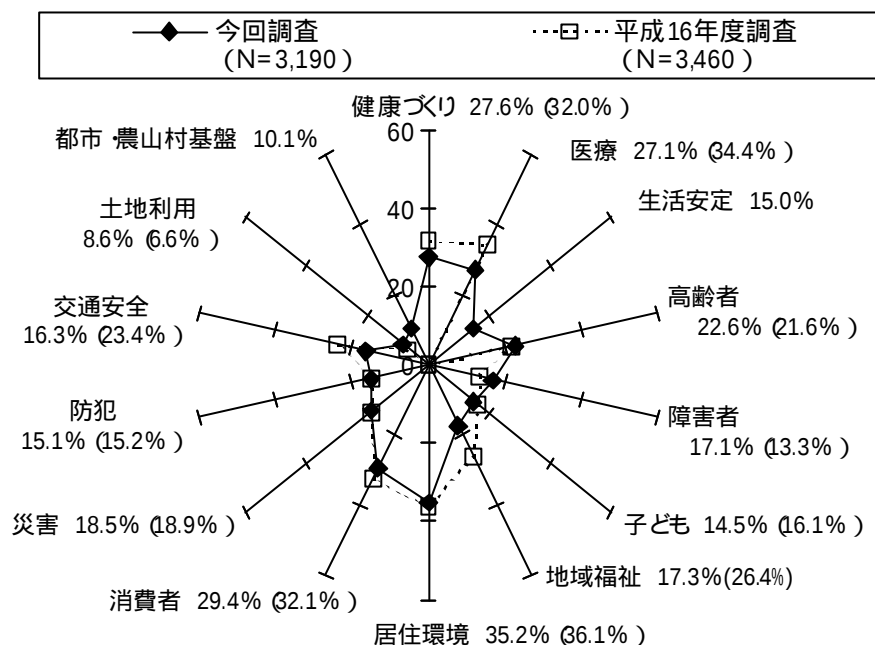


- 3 暮らし分野の『満足度』【全体平均 19.6%（平成 16 年度調査 23.0%）】

暮らしの分野 14 項目のうち、「居住環境」に対する『満足度』が最も高く 35.2%、次いで「消費者」が 29.4%、「健康づくり」が 27.6%、「医療」が 27.1%と続いている。

平成 16 年度調査と比較すると「障害者」が 3.8 ポイント増加している一方で、「地域福祉」が 9.1 ポイント、「医療」が 7.3 ポイント、「交通安全」が 7.1 ポイント減少している。

なお、「生活安定」（15.0%）「都市・農山村基盤」（10.1%）は今回調査で新たに項目として追加したものである。

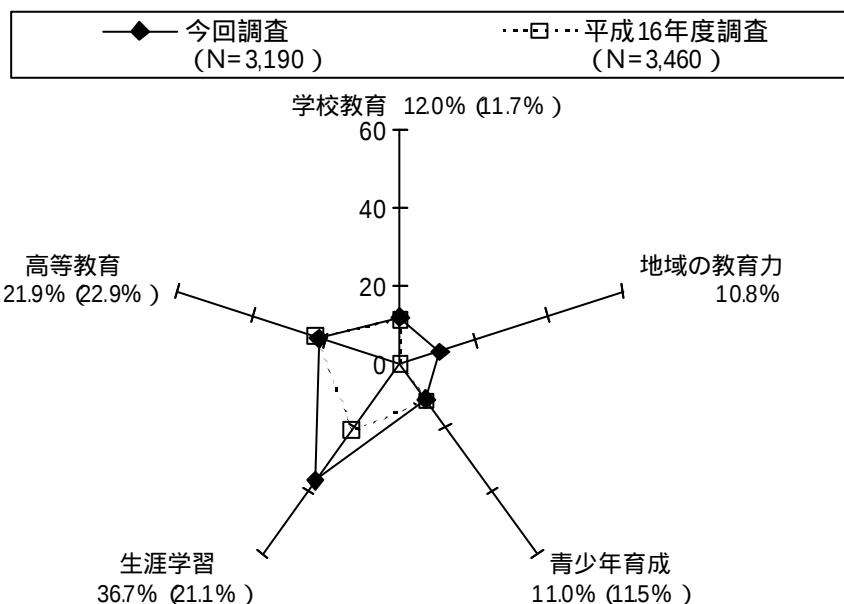


- 4 教育分野の『満足度』【全体平均 18.5%（平成 16 年度調査 16.8%）】

教育分野の 5 項目のうち、「生涯学習」に対する『満足度』が最も高く 36.7%となっており、「高等教育」が 21.9%で続いている。

平成 16 年度調査と比較すると「生涯学習」が 15.6 ポイント増加している。

なお、「地域の教育力」は今回調査で新たに項目として追加したものであるが、『満足度』は 10.8%となっている。

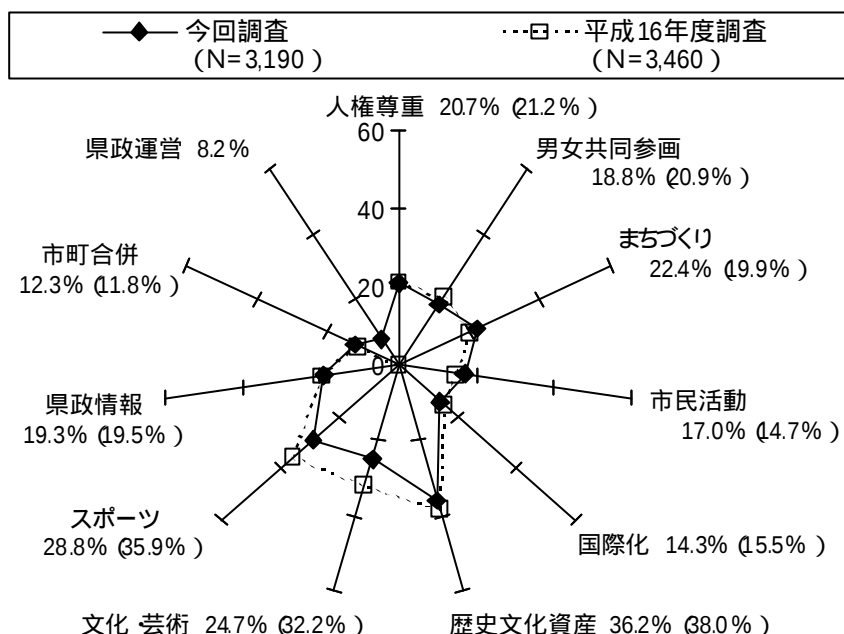


- 5 自治・文化分野の『満足度』【全体平均 20.2%（平成 16 年度調査 23.0%）】

自治・文化の分野 11 項目のうち、「歴史文化資産」に対する『満足度』が最も高く 36.2% となっている。次いで「スポーツ」が 28.8%、「文化・芸術」が 24.7%と続いている。

しかし、平成 16 年度調査と比べると「文化・芸術」が 7.5 ポイント、「スポーツ」が 7.1 ポイント減少している。

なお「県政運営」は今回調査で新たに項目として追加したものであるが、『満足度』は 8.2%となっている。



【地域別】

東近江地域と湖北地域を除き、各地域で「水環境」が『満足度』で 1 位となっている。大津・志賀地域では「景観」が「水環境」と並び 1 位となっており、東近江地域では「景観」が 1 位で「水環境」は 2 位、湖北地域では「景観」が 1 位で、2 位は「みどり」、水環境」は 3 位となっている。

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	1.水環境 (46.4%)	4.景観 (45.7%)	5.みどり (40.1%)	39.生涯学習 (36.7%)	46.歴史文化資産 (36.2%)
大津・志賀 地 域	1.水環境 (46.6%)	4.景観 (46.6%)	5.みどり (39.5%)	46.歴史文化資産 (38.7%)	29.居住環境 (35.3%)
湖 南 地 域	1.水環境 (51.9%)	4.景観 (45.7%)	6.省資源・資源循環 (38.9%)	39.生涯学習 (38.6%)	3.自然環境 (37.6%)
甲 賀 地 域	1.水環境 (42.3%)	4.景観 (40.0%)	29.居住環境 (37.2%)	39.生涯学習 (37.1%)	6.省資源・資源循環 (35.4%)
東近江地域	4.景観 (50.1%)	1.水環境 (45.9%)	5.みどり (45.6%)	39.生涯学習 (41.2%)	46.歴史文化資産 (37.5%)
湖 東 地 域	1.水環境 (42.2%)	4.景観 (39.5%)	46.歴史文化資産 (38.9%)	5.みどり (38.4%)	29.居住環境 (32.7%)
湖 北 地 域	4.景観 (50.5%)	5.みどり (46.1%)	1.水環境 (45.6%)	6.省資源・資源循環 (41.7%)	39.生涯学習 (39.2%)
湖 西 地 域	1.水環境 (44.3%)	39.生涯学習 (43.6%)	4.景観 (41.5%)	22.健康づくり (40.8%)	5.みどり 48.スポーツ (40.1%)

【性別】

『満足度』の上位3位以内に男女とも「水環境」、「景観」、「みどり」が入っており、続いて男性では4位に「歴史文化資産」、5位に「居住環境」が入り、女性では4位に「生涯学習」、5位に「省資源・資源循環」が入っている。

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男 性	1. 水環境 (46.2%)	4. 景観 (43.1%)	5. みどり (38.1%)	46. 歴史文化資産 (37.6%)	29. 居住環境 (35.9%)
女 性	4. 景観 (48.7%)	1. 水環境 (47.5%)	5. みどり (42.4%)	39. 生涯学習 (38.4%)	6. 省資源・資源循環 (38.1%)

【性・年代別】

男性では20歳代を除き、「水環境」が『満足度』で1位となっている。20歳代では1位が「歴史文化資産」となっており、「水環境」は4位となっている。

一方、女性では50歳代と70歳以上では「水環境」が『満足度』1位となっている。20歳代、40歳代、60歳代では「景観」が1位となっており、30歳代では「省資源・資源循環」が1位となっている。

順 位		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男 性	20 歳代	46. 歴史文化資産 (41.3%)	4. 景観 (37.0%)	6. 省資源・資源循環 (34.2%)	1. 水環境 (32.0%)	29. 居住環境 (30.9%)
	30 歳代	1. 水環境 (46.8%)	4. 景観 (38.2%)	29. 居住環境 (36.0%)	3. 自然環境 (34.9%)	5. みどり (34.5%)
	40 歳代	1. 水環境 (45.0%)	4. 景観 (41.3%)	46. 歴史文化資産 (38.8%)	6. 省資源・資源循環 (38.0%)	3. 自然環境 (37.2%)
	50 歳代	1. 水環境 (46.1%)	4. 景観 (42.8%)	29. 居住環境 (40.3%)	39. 生涯学習 (38.4%)	6. 省資源・資源循環 (36.6%)
	60 歳代	1. 水環境 (49.4%)	4. 景観 5. みどり (43.0%)		46. 歴史文化資産 (36.3%)	48 スポーツ (36.2%)
	7 0 歳 以 上	1. 水環境 (54.8%)	4. 景観 (54.0%)	5. みどり (49.0%)	46. 歴史文化資産 (44.7%)	29. 居住環境 (43.1%)
女 性	20 歳代	4. 景観 (49.1%)	5. みどり (45.0%)	46. 歴史文化資産 (42.3%)	1. 水環境 (40.0%)	39. 生涯学習 (35.5%)
	30 歳代	6. 省資源・資源循環 (43.8%)	4. 景観 (43.4%)	1. 水環境 46. 歴史文化資産 (40.0%)		5. みどり (39.2%)
	40 歳代	4. 景観 (48.7%)	1. 水環境 (47.2%)	5. みどり (41.7%)	6. 省資源・資源循環 (37.3%)	39. 生涯学習 (33.9%)
	50 歳代	1. 水環境 (49.1%)	4. 景観 (45.5%)	5. みどり 6. 省資源・資源循環 (41.3%)		39. 生涯学習 (38.3%)
	60 歳代	4. 景観 (52.7%)	1. 水環境 (52.1%)	39. 生涯学習 (42.5%)	29. 居住環境 (39.4%)	5. みどり (38.7%)
	7 0 歳 以 上	1. 水環境 (54.5%)	4. 景観 (53.3%)	5. みどり (49.3%)	39. 生涯学習 (42.1%)	29. 居住環境 (40.3%)

【定住意向別】

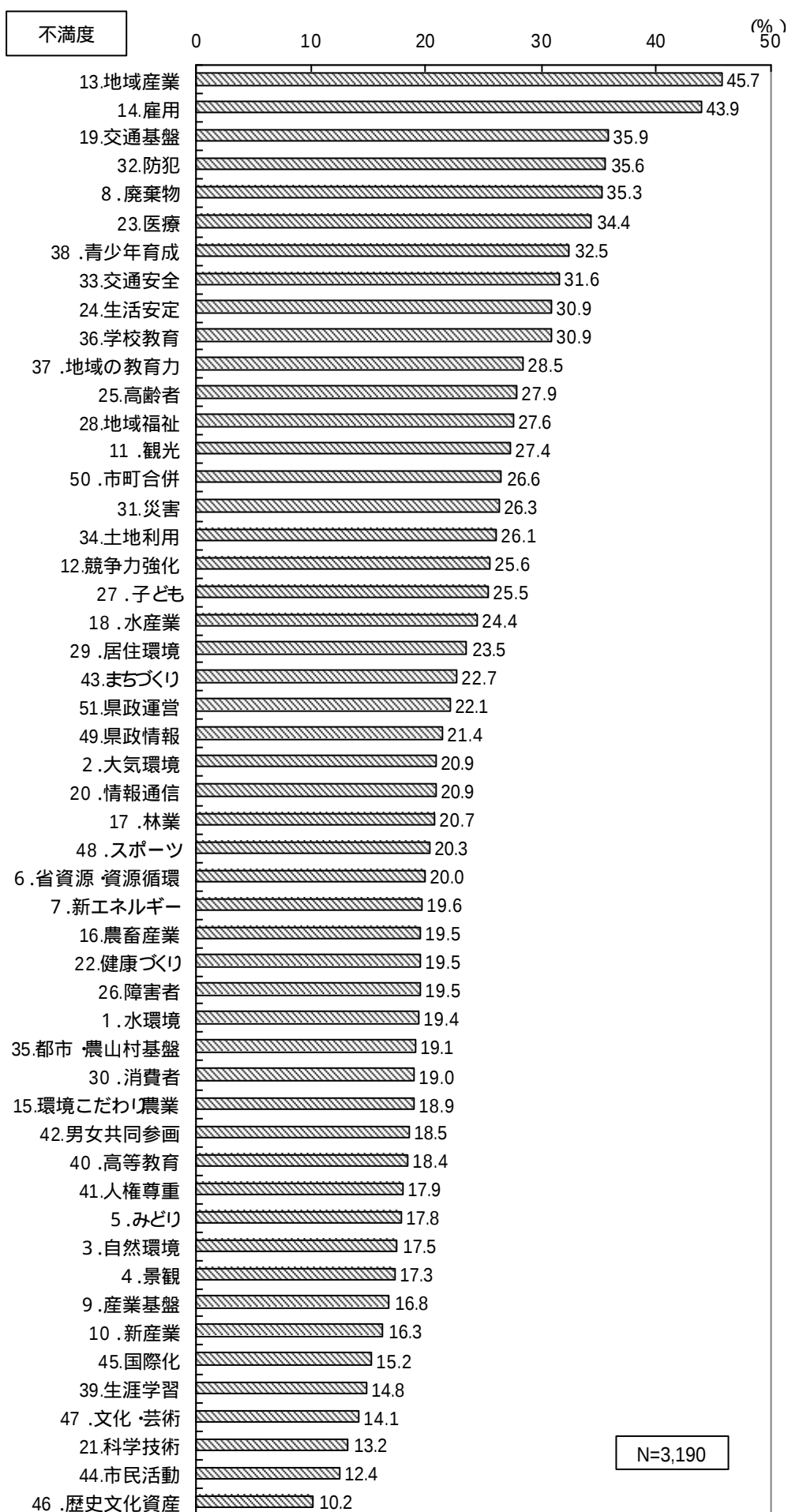
「住みつづけたい」と回答した人の『満足度』は「水環境」が最も高く、次いで「景観」となっている。「水環境」や「景観」は定住意向に関わらず『満足度』の上位となっている。

順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
住みつづけた い	1. 水環境 (49.7%)	4. 景観 (49.3%)	5. みどり (44.6%)	39. 生涯学習 (40.3%)	29. 居住環境 (39.2%)
住みつづけ たいとは思 わない	4. 景観 (38.7%)	1. 水環境 (32.3%)	46. 歴史文化資産 (32.2%)	3. 自然環境 (25.8%)	39. 生涯学習 (25.0%)
どちらとも いえない	1. 水環境 (38.8%)	4. 景観 (36.0%)	46. 歴史文化資産 (30.7%)	5. みどり (29.6%)	6. 省資源・資源循環 (29.1%)

『不満度』の高い施策

『不満度』が最も高い施策は「地域産業」で 45.7%、次いで「雇用」が 43.9%となっており、この 2 項目が 40%を超えている。また、「交通基盤」が 35.9%となっており、産業・経済の分野の項目が上位 3 位を占めた。また暮らしの分野の「防犯」が 35.6%、環境の分野の「廃棄物」が 35.3%と続いている。

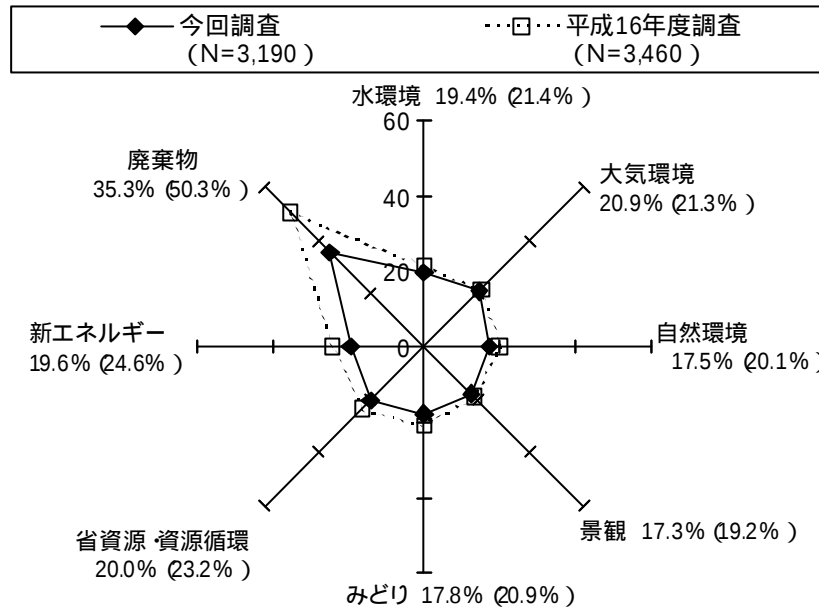
『不満度』上位 10 位の内訳は、暮らしの分野から 4 項目、産業・経済の分野から 3 項目、教育の分野から 2 項目、環境の分野から 1 項目となっている。



- 1 環境分野の『不満度』【全体平均 21.0% (平成 16 年度調査 25.1%)】

環境分野の 8 項目中、「廃棄物」に対する『不満度』が最も高く 35.3%となっている。他の項目は 20%前後の『不満度』となっている。

しかし、平成 16 年度調査と比較すると全体的に『不満度』は減少傾向にあり、特に「廃棄物」は 15.0 ポイント減少している。

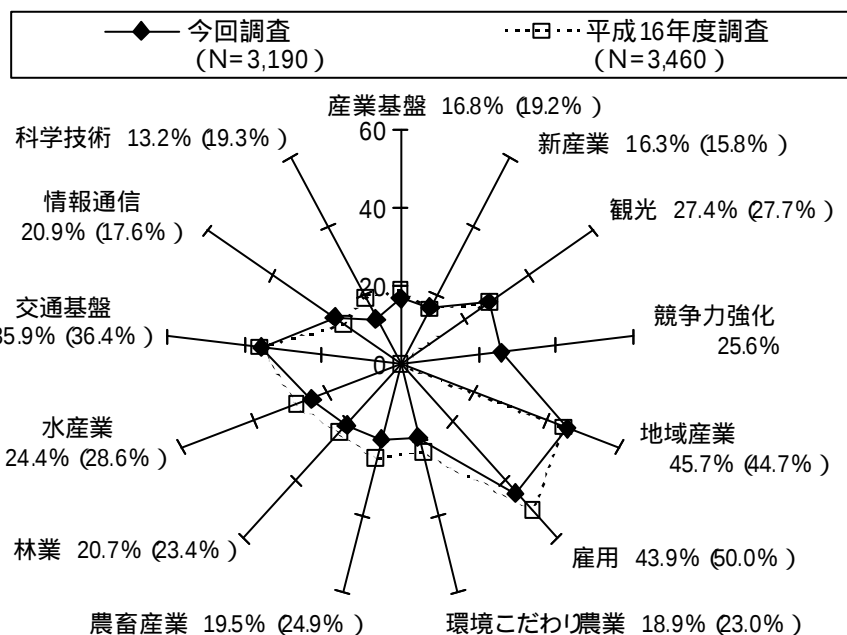


- 2 産業・経済分野の『不満度』【全体平均 25.3% (平成 16 年度調査 27.6%)】

産業・経済の分野の 13 項目中、「地域産業」に対する『不満度』が最も高く 45.7%、次いで「雇用」が 43.9%となっており 40%を超えている。また、「交通基盤」は 35.9%となっている。

平成 16 年度調査と比較して大きな増減はないが、特に「雇用」と「科学技術」は 6.1 ポイント、「環境こだわり農業」は 4.1 ポイント減少している。

なお、「競争力強化」は今回調査で新たに項目として追加したものであるが、『不満度』は 25.6%となっている。



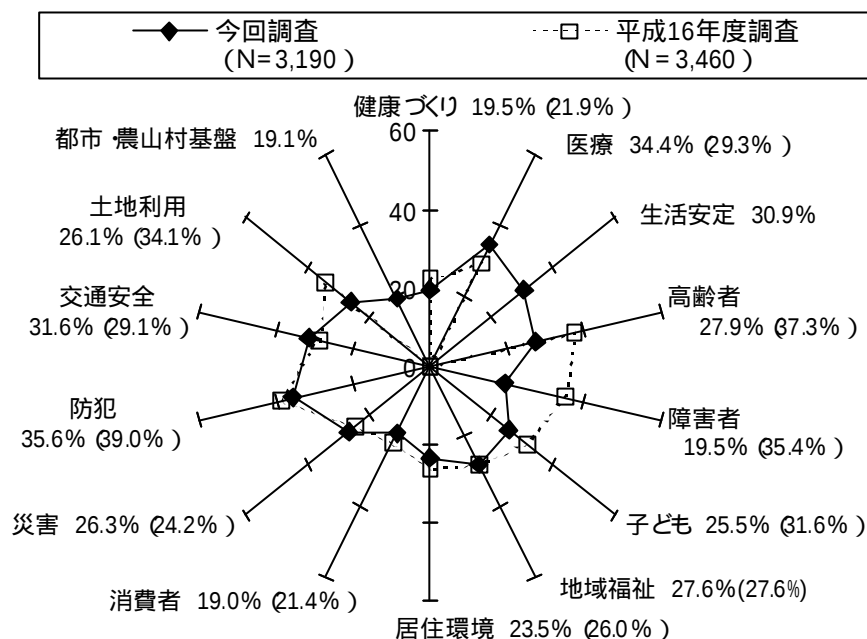
- 3 暮らし分野の『不満度』【全体平均 26.2%（平成 16 年度調査 29.7%）】

暮らしの分野 14 項目のうち、「防犯」に対する『不満度』が最も高く 35.6%、次いで「医療」が 34.4%、「交通安全」が 31.6%、「生活安定」が 30.9%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると「障害者」は 15.9 ポイント、「高齢者」は 9.4 ポイント、「土地利用」は 8.0 ポイント、「子ども」は 6.1 ポイント減少している。

一方、「医療」では『不満度』が 5.1 ポイント増加している。

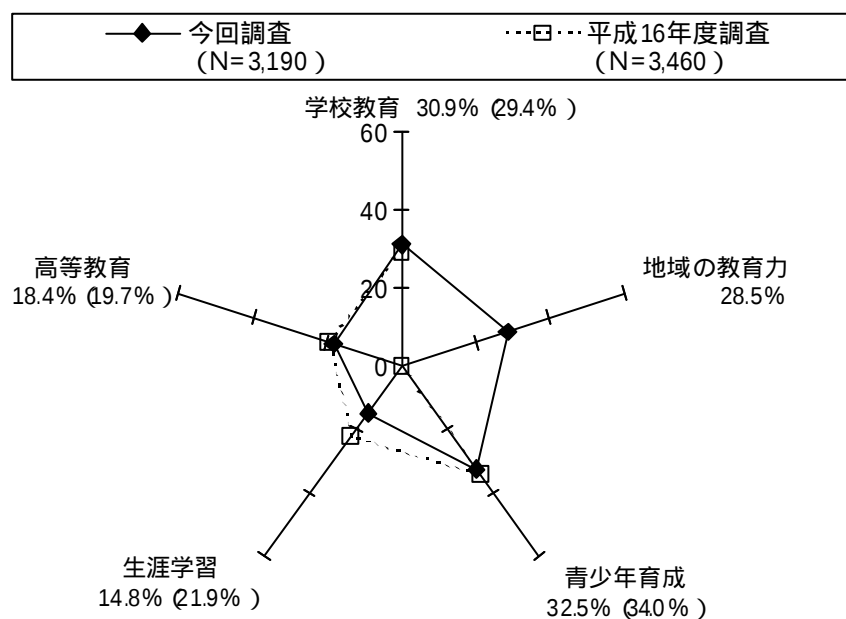
なお、「生活安定」(30.9%) 「都市・農山村基盤」(19.1%) は今回調査で新たに項目として追加したものである。



- 4 教育分野の『不満度』【全体平均 25.0%（平成 16 年度調査 26.3%）】

教育分野の 5 項目のうち、「青少年育成」に対する『不満度』が最も高く 32.5%となっている。次いで「学校教育」が 30.9%となっている。

なお、「地域の教育力」は今回調査で新たに項目として追加したものであるが、28.5%の『不満度』となっている。

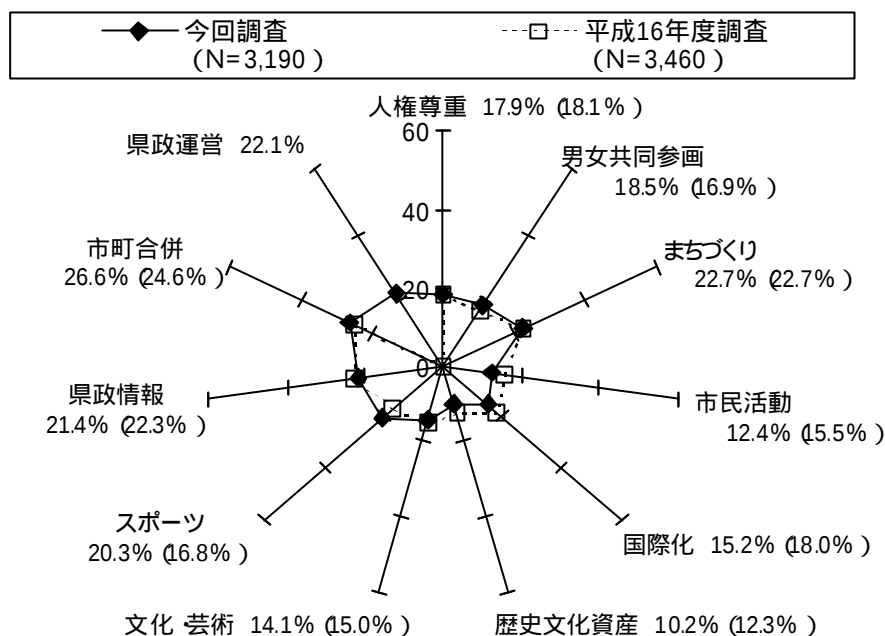


- 5 自治・文化分野の『不満度』【全体平均 18.3%（平成 16 年度調査 18.2%）】

自治・文化の分野 11 項目のうち、「市町合併」に対する『不満度』が最も高く 26.6%となっている。次いで「まちづくり」が 22.7%、「県政運営」が 22.1%、「県政情報」が 21.4%、「スポーツ」が 20.3%となっており、以上の 5 項目で『不満度』が 20%を越えている。

平成 16 年度調査との比較のうえでは、大きな増減はない。

なお「県政運営」は今回調査で新たに項目として追加したものであるが、『不満度』は 22.1%となっている。



【地域別】

大津・志賀地域、湖南地域、甲賀地域では「地域産業」が『不満度』の 1 位となっており、2 位に「雇用」が入っている。東近江地域、湖東地域、湖北地域、湖西地域では「雇用」が 1 位となっている。「地域産業」は東近江地域、湖東地域、湖西地域で 2 位、湖北地域で 4 位となっている。湖北地域では 2 位に「廃棄物」とともに「市町合併」が入っている。

順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	13. 地域産業 (45.7%)	14. 雇用 (43.9%)	19. 交通基盤 (35.9%)	32. 防犯 (35.6%)	8. 廃棄物 (35.3%)
大津・志賀 地 域	13. 地域産業 (52.3%)	14. 雇用 (43.6%)	19. 交通基盤 (40.6%)	32. 防犯 (37.4%)	33. 交通安全 (33.4%)
湖 南 地 域	13. 地域産業 (46.0%)	14. 雇用 (43.5%)	32. 防犯 (37.1%)	19. 交通基盤 (34.6%)	8. 廃棄物 (34.3%)
甲 賀 地 域	13. 地域産業 (49.7%)	14. 雇用 (40.6%)	19. 交通基盤 (39.5%)	23. 医療 (39.4%)	8. 廃棄物 (37.7%)
東 近 江 地 域	14. 雇用 (45.2%)	13. 地域産業 (43.7%)	23. 医療 (39.3%)	19. 交通基盤 (37.8%)	8. 廃棄物 (37.2%)
湖 東 地 域	14. 雇用 (43.9%)	13. 地域産業 (43.8%)	8. 廃棄物 (40.6%)	32. 防犯 (37.2%)	24. 生活安定 (35.6%)
湖 北 地 域	14. 雇用 (43.7%)	8. 廃棄物 50. 市町合併 (35.3%)	13. 地域産業 (34.8%)	24. 生活安定 36. 学校教育 (33.8%)	
湖 西 地 域	14. 雇用 (50.0%)	13. 地域産業 23. 医療 (43.0%)	19. 交通基盤 (40.8%)	8. 廃棄物 (29.6%)	

【性別】

男女とも『不満度』の上位2位に「地域産業」と「雇用」が入っている。また男女ともに5位内に「交通基盤」と「防犯」が入っている。男性では4位に「廃棄物」、女性では3位に「医療」が入っている。

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男 性	13. 地域産業 (50.4%)	14. 雇用 (43.5%)	19. 交通基盤 (39.6%)	8. 廃棄物 (39.2%)	32. 防犯 (37.2%)
女 性	14. 雇用 (44.6%)	13. 地域産業 (41.9%)	23. 医療 (35.8%)	32. 防犯 (34.3%)	19. 交通基盤 (33.1%)

【性・年代別】

男性では20歳代～60歳代の年代で「地域産業」が『不満度』の1位となっている。70歳以上では「廃棄物」が1位で、「地域産業」は2位となっている。また、男性の30歳代と50歳代、60歳代では「雇用」が2位となっている。

女性では「雇用」が40歳代～60歳代の年代で『不満度』1位となっている。「雇用」は20歳代、30歳代で2位、70歳以上では3位となっている。20歳代と70歳以上では「地域産業」が1位となっており、30歳代では「医療」が1位となっている。

順 位		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男 性	20 歳代	13. 地域産業 (58.7%)	19. 交通基盤 (49.4%)	14. 雇用 (46.7%)	33. 交通安全 (39.7%)	38. 青少年育成 (35.9%)
	30 歳代	13. 地域産業 (56.5%)	14. 雇用 (44.6%)	19. 交通基盤 (43.6%)	28. 地域福祉 (42.5%)	36. 学校教育 (41.9%)
	40 歳代	13. 地域産業 (54.7%)	23. 医療 (48.2%)	38. 青少年育成 (47.8%)	14. 雇用 (46.1%)	8. 廃棄物 (43.4%)
	50 歳代	13. 地域産業 (50.1%)	14. 雇用 (44.9%)	19. 交通基盤 (41.1%)	8. 廃棄物 (40.0%)	32. 防犯 (37.1%)
	60 歳代	13. 地域産業 (51.7%)	14. 雇用 (47.9%)	38. 青少年育成 (41.8%)	32. 防犯 (38.5%)	18. 水産業 (37.0%)
	70 歳以上	8. 廃棄物 (40.1%)	13. 地域産業 (33.7%)	32. 防犯 (32.9%)	14. 雇用 (30.4%)	33. 交通安全 (29.5%)
女 性	20 歳代	13. 地域産業 (49.0%)	14. 雇用 (44.1%)	32. 防犯 (43.6%)	23. 医療 (36.4%)	19. 交通基盤 (35.4%)
	30 歳代	23. 医療 (50.9%)	14. 雇用 (47.2%)	13. 地域産業 (46.8%)	19. 交通基盤 (45.3%)	32. 防犯 (38.5%)
	40 歳代	14. 雇用 (55.0%)	13. 地域産業 36. 学校教育 (50.2%)		23. 医療 (46.9%)	37. 地域の教育力 (45.4%)
	50 歳代	14. 雇用 (51.2%)	13. 地域産業 (42.2%)	8. 廃棄物 (34.7%)	19. 交通基盤 (31.1%)	23. 医療 (30.6%)
	60 歳代	14. 雇用 (41.8%)	13. 地域産業 (35.9%)	8. 廃棄物 (33.2%)	24. 生活安定 (31.5%)	23. 医療 (27.7%)
	70 歳以上	13. 地域産業 (29.1%)	32. 防犯 (26.8%)	14. 雇用 (26.1%)	23. 医療 (25.0%)	25. 高齢者 (24.6%)

【定住意向別】

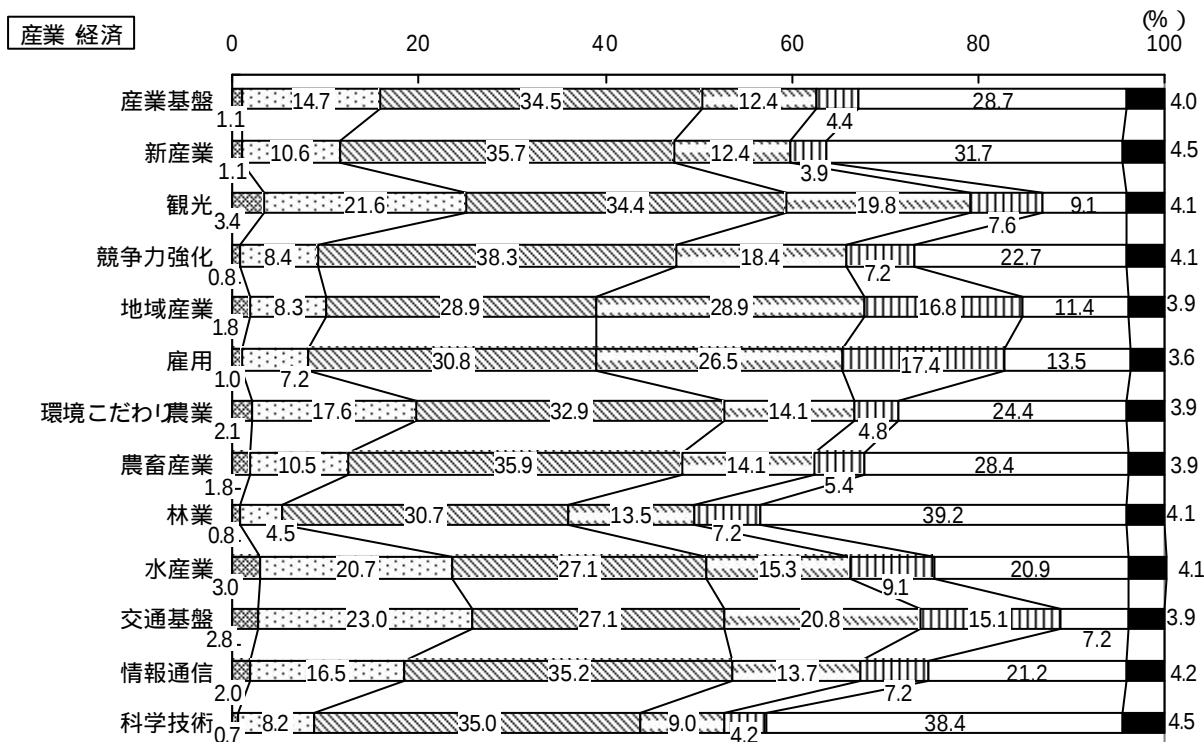
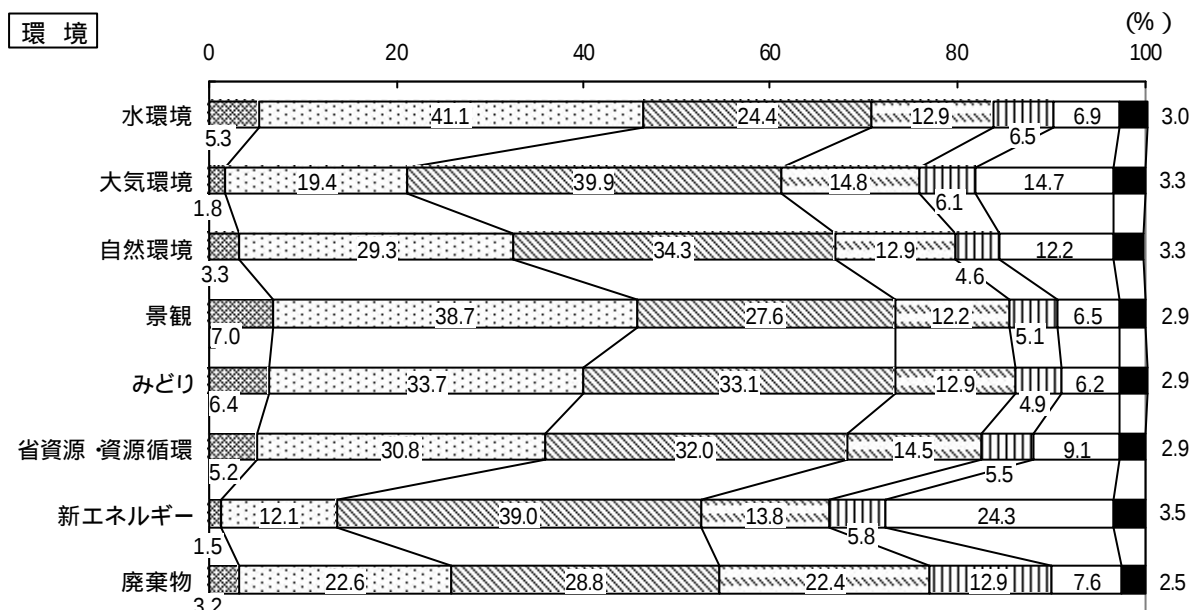
「住みつづけたい」と回答した人の『不満度』では、「地域産業」が1位、「雇用」が2位となっている。

定住意向にかかわらず、「地域産業」、「雇用」、「交通基盤」、「医療」、「防犯」の5項目が『不満度』の5位内に入っている。

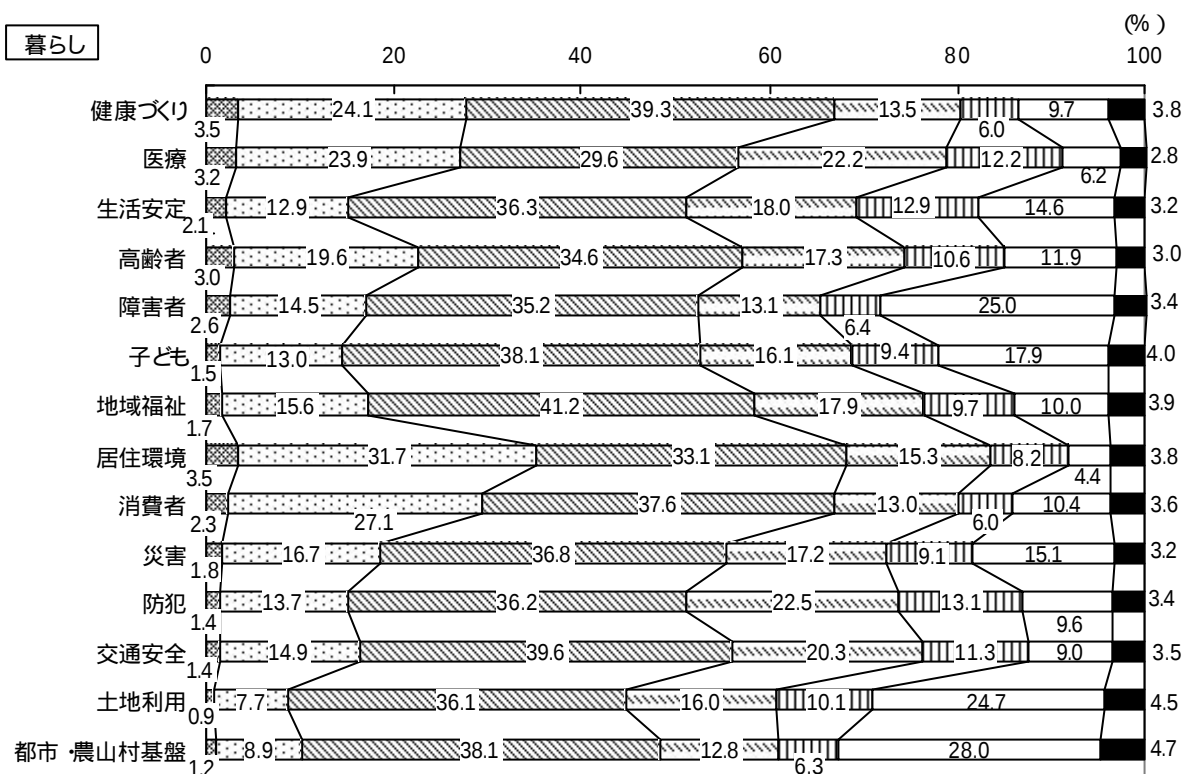
順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
住みつづけた	13. 地域産業 (43.9%)	14. 雇用 (41.0%)	8. 廃棄物 (33.6%)	32. 防犯 (33.0%)	19. 交通基盤 23. 医療(31.9%)
住みつづけたとは思わない	13. 地域産業 (64.6%)	19. 交通基盤 (59.7%)	32. 防犯 (57.3%)	23. 医療 (50.0%)	14. 雇用 36. 学校教育 (48.4%)
どちらともいえない	14. 雇用 (54.2%)	13. 地域産業 (48.6%)	19. 交通基盤 (47.1%)	32. 防犯 (41.9%)	23. 医療 (41.7%)

県政に対する『満足度』、『不満度』（全体の結果） **N = 3,190**

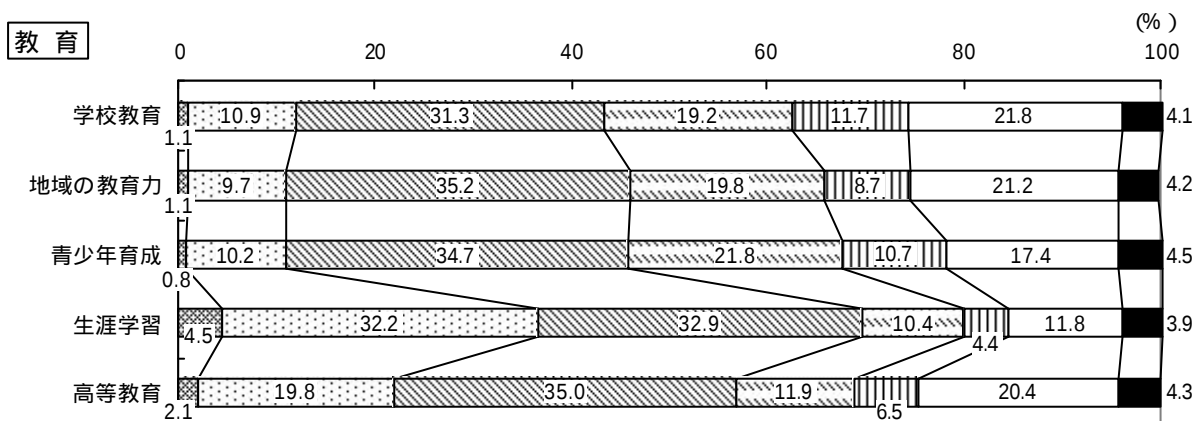
■満足 □どちらかといえば満足 ▨どちらともいえない ▩どちらかといえば不満 ▧不満 □わからない ■不明・無回答



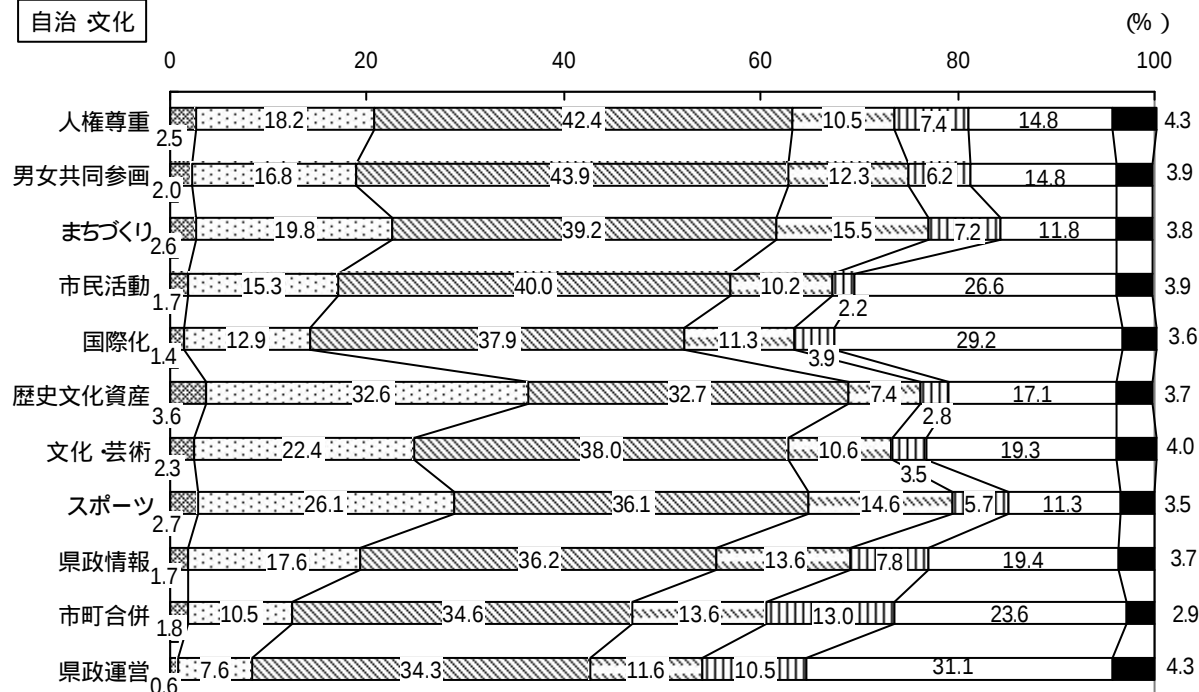
暮らし



教育



自治・文化

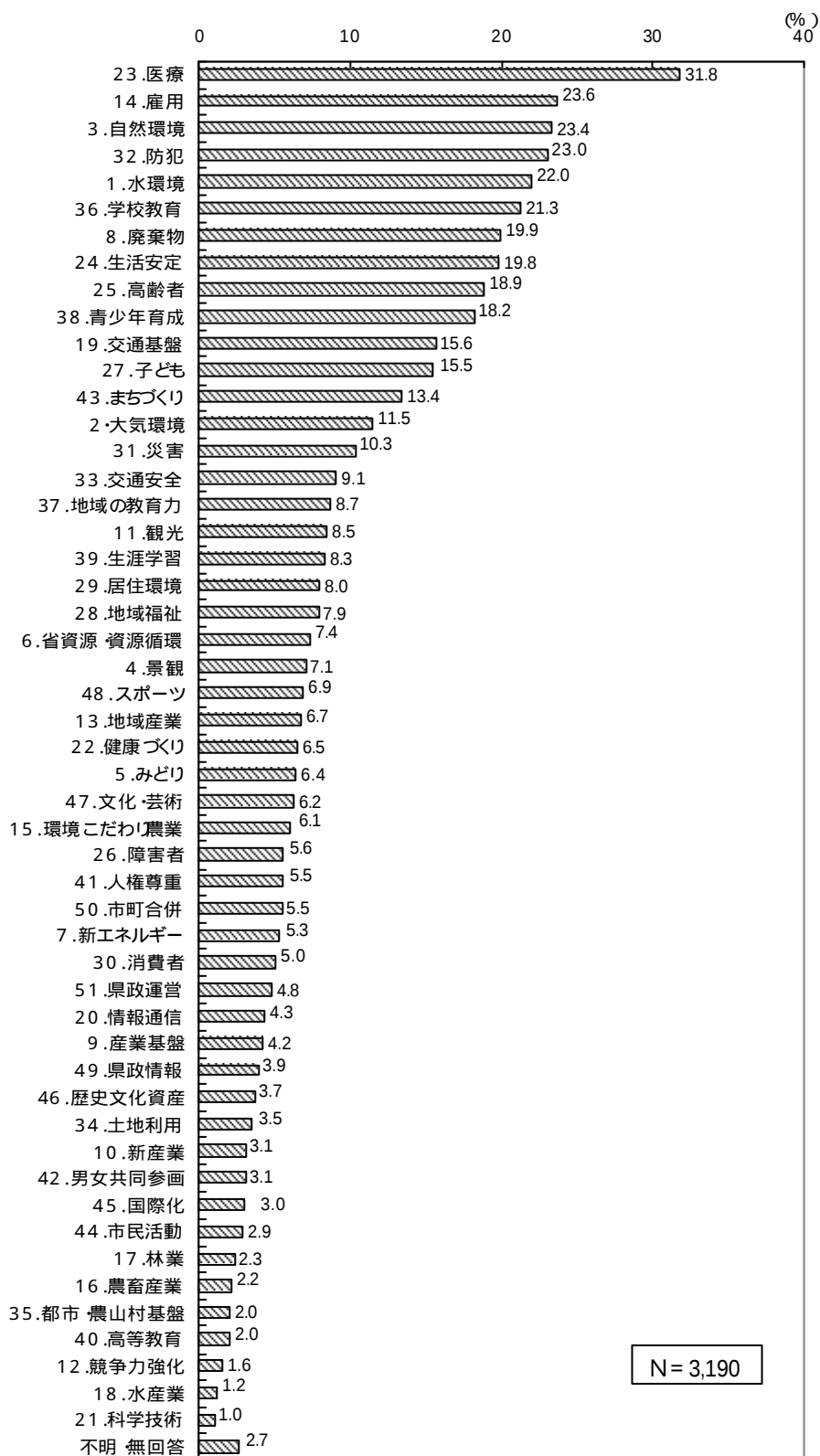


(4) 県政への要望

問8 あなたが、いま県の施策で力を入れてほしいと思うことはどんなことですか。前問の内容を参考に、1～51の中から5つまで選んでください。(○は5つまで)

全体の順位

全体では、「医療」が最も多く 31.8%、次いで「雇用」が 23.6%、「自然環境」が 23.4%、「防犯」が 23.0%となっている。要望の多い 10 項目には、環境の分野から 3 項目、産業・経済の分野から 1 項目、暮らしの分野から 4 項目、教育の分野から 2 項目が入っている。

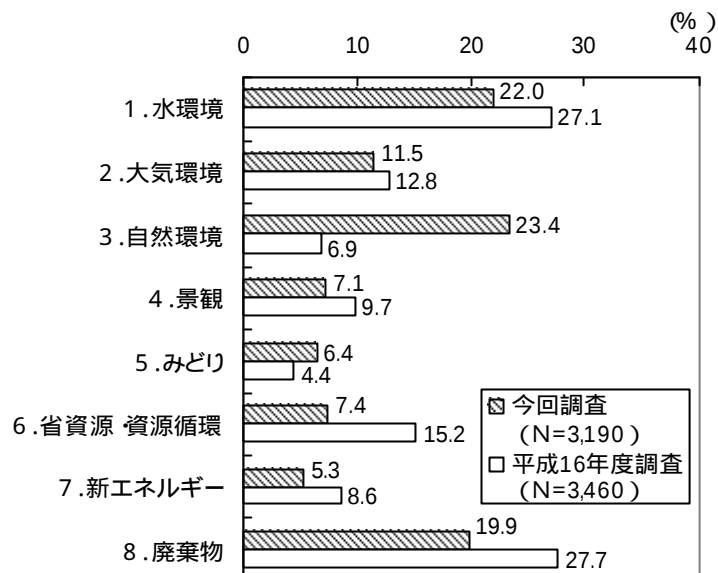


環境分野における要望

環境の分野では「自然環境」が最も多く 23.4%、次いで「水環境」が 22.0%、「廃棄物」が 19.9%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると、「自然環境」が 16.5 ポイント増加している。

一方、「省資源・資源循環」では 7.8 ポイント、「水環境」では 5.1 ポイント減少している。

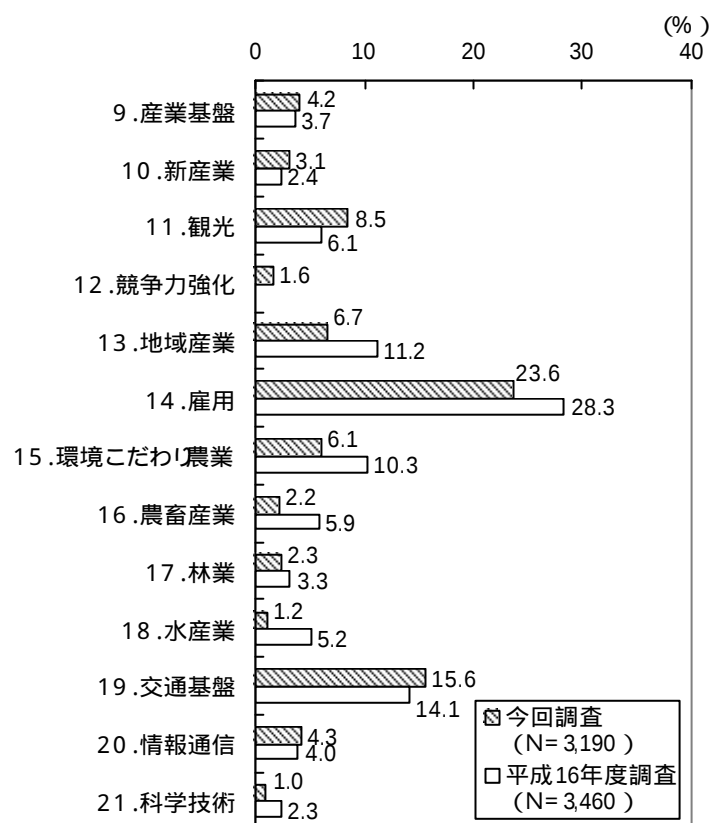


産業・経済分野における要望

産業・経済の分野では、「雇用」が最も多く 23.6%、次いで「交通基盤」が 15.6%となっている。

今回新たに設問に加えた「競争力強化」は 1.6%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると「雇用」が 4.7 ポイント減少している。



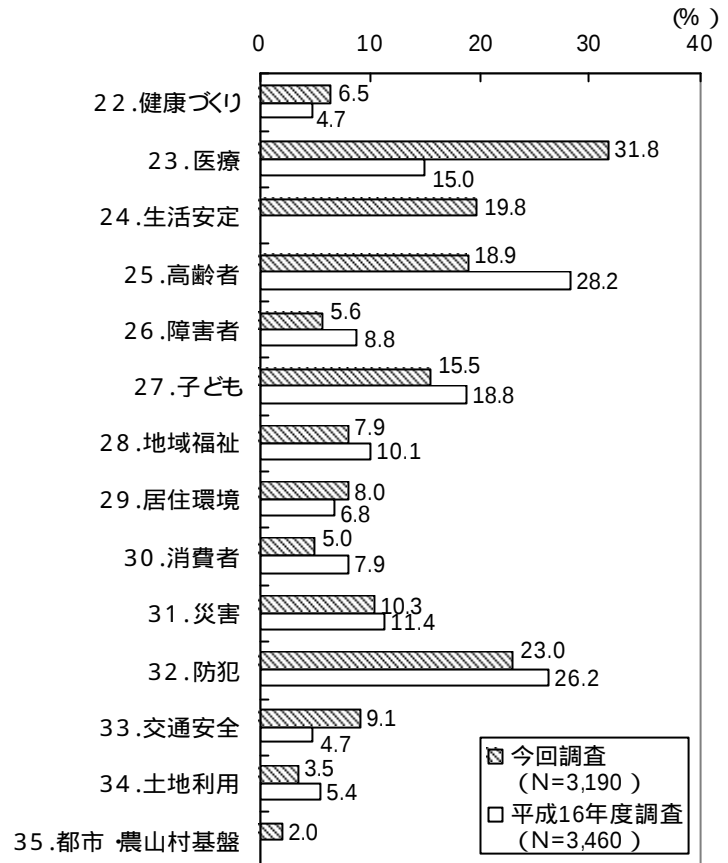
暮らしの分野の要望

暮らしの分野では、「医療」への要望が最も多く 31.8%となっている。また、「防犯」が 23.0%と多い。

今回新たに設問に加えた「生活安定」は 19.8%、「都市・農山村基盤」は 2.0%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると「医療」が 16.8 ポイント増加しているほか、「交通安全」も 4.4 ポイント増加している。

一方、「高齢者」では、9.3 ポイント減少している。

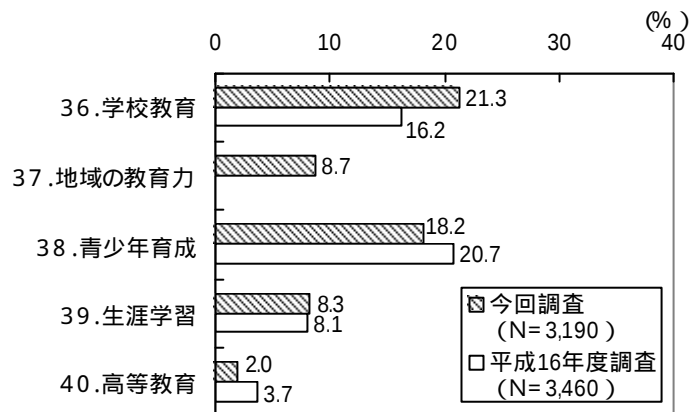


教育分野の要望

教育の分野では「学校教育」への要望が最も多く 21.3%、「青少年育成」が 18.2%となっている。

今回新たに設問に加えた「地域の教育力」は 8.7%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると、「学校教育」が 5.1 ポイント増加している。

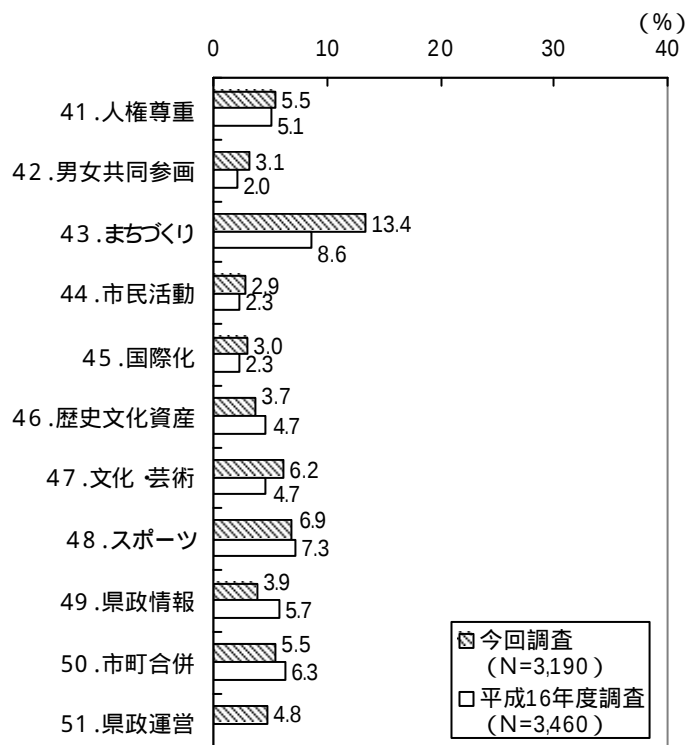


自治・文化の分野の要望

自治・文化の分野では、「まちづくり」が最も要望が多く 13.4%となっている。

今回新たに設問に加えた「県政運営」は 4.8%となっている。

平成 16 年度調査と比較すると、「まちづくり」は 4.8 ポイント増加している。



【地域別】

湖南地域と湖西地域を除き、1位は「医療」となっている。「医療」は湖南地域と湖西地域でも2位に入っており、要望が多い。

各地域とも「医療」、「雇用」、「自然環境」、「防犯」、「水環境」が上位に入っているが、甲賀地域では「交通基盤」、「廃棄物」、「高齢者」の3つの項目が上位に入っている。また、東近江地域では「学校教育」が5位に入っている。湖東地域では「学校教育」と「青少年育成」が2位となっている。「学校教育」は湖北地域でも3位に入っている。

さらに、湖西地域では「廃棄物」が3位に、「高齢者」が4位に入っている。

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	23. 医療 (31.8%)	14. 雇用 (23.6%)	3. 自然環境 (23.4%)	32. 防犯 (23.0%)	1. 水環境 (22.0%)
大 津 ・ 志 賀 地 域	23. 医療 (31.7%)	1. 水環境 (28.7%)	3. 自然環境 (25.7%)	32. 防犯 (25.2%)	14. 雇用 (22.5%)
湖 南 地 域	32. 防犯 (28.7%)	23. 医療 (26.9%)	1. 水環境 (24.4%)	3. 自然環境 14. 雇用 (22.2%)	
甲 賀 地 域	23. 医療 (34.9%)	3. 自然環境 (26.3%)	19. 交通基盤 (22.3%)	8. 廃棄物 (21.7%)	25. 高齢者 32. 防犯 (21.1%)
東 近 江 地 域	23. 医療 (38.2%)	14. 雇用 (26.1%)	3. 自然環境 (24.6%)	1. 水環境 (22.8%)	36. 学校教育 (21.7%)
湖 東 地 域	23. 医療 (30.6%)	36. 学校教育 38. 青少年育成 (23.9%)		32. 防犯 (22.8%)	3. 自然環境 (22.2%)
湖 北 地 域	23. 医療 (30.4%)	14. 雇用 (27.5%)	36. 学校教育 (26.5%)	8. 廃棄物 (20.6%)	3. 自然環境 (20.1%)
湖 西 地 域	14. 雇用 (32.4%)	23. 医療 (31.0%)	8. 廃棄物 (25.4%)	1. 水環境 25. 高齢者 (21.1%)	

【性別】

男女とも「医療」、「防犯」が5位内に入っている。また、男性では1位に「自然環境」と「医療」が入っており、女性では「医療」が1位に入っている。

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男 性	3. 自然環境 23. 医療 (25.1%)		1. 水環境 (24.3%)	32. 防犯 (22.3%)	8. 廃棄物 (21.5%)
女 性	23. 医療 (37.8%)	14. 雇用 (25.7%)	32. 防犯 (24.1%)	24. 生活安定 (22.9%)	36. 学校教育 (22.5%)

【性・年代別】

男性では、20歳代は「水環境」と「自然環境」、「交通基盤」が同率で1位となっている。「水環境」は60歳代でも1位、70歳以上では2位となっているが、他の年代では5位内に入っていない。

男性では「医療」や「雇用」、「防犯」はどの年代も総じて要望が多い。また、30歳代で「子ども」が1位となっており、30歳代、40歳代とも「学校教育」が3位となっている。50歳代、60歳代では「廃棄物」が2位に入っており、70歳以上では「青少年育成」が1位となっている。

女性では、「医療」が全ての年代で1位または2位となっている。30歳代では「子ども」が1位となっている。70歳以上では「高齢者」が1位となっている。

順 位		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
男 性	20 歳代	1. 水環境 19. 交通基盤	3. 自然環境 (25.0%)		14. 雇用 (23.4%)	23. 医療 32. 防犯(19.0%)
	30 歳代	27. 子ども (32.8%)	23. 医療 (32.3%)	36. 学校教育 (30.6%)	19. 交通基盤 (22.0%)	14. 雇用 (19.9%)
	40 歳代	32. 防犯 (30.0%)	3. 自然環境 (28.7%)	36. 学校教育 (27.9%)	23. 医療 (26.3%)	8. 廃棄物 (24.7%)
	50 歳代	14. 雇用 (30.0%)	8. 廃棄物 (26.0%)	3. 自然環境 (24.5%)	23. 医療 32. 防犯 (23.5%)	
	60 歳代	1. 水環境 (32.8%)	8. 廃棄物 (26.0%)	3. 自然環境 (25.7%)	23. 医療 (24.5%)	14. 雇用 (22.6%)
	70 歳以上	38. 青少年育成 (28.3%)	1. 水環境 (27.8%)	3. 自然環境 25. 高齢者 (27.4%)		23. 医療 (25.7%)
女 性	20 歳代	23. 医療 (42.3%)	32. 防犯 (32.7%)	14. 雇用 (30.0%)	1. 水環境 (25.9%)	27. 子ども (23.6%)
	30 歳代	27. 子ども (43.0%)	23. 医療 (41.9%)	32. 防犯 (39.6%)	36. 学校教育 (35.8%)	14. 雇用 (23.4%)
	40 歳代	23. 医療 (42.8%)	36. 学校教育 (35.8%)	14. 雇用 (32.8%)	24. 生活安定 (25.1%)	32. 防犯 (24.4%)
	50 歳代	14. 雇用 (33.6%)	23. 医療 (32.5%)	3. 自然環境 (24.8%)	24. 生活安定 (24.2%)	8. 廃棄物 (24.0%)
	60 歳代	23. 医療 (33.6%)	25. 高齢者 (32.9%)	24. 生活安定 (31.5%)	38. 青少年育成 (27.4%)	3. 自然環境 (26.7%)
	70 歳以上	25. 高齢者 (38.8%)	23. 医療 (36.6%)	1. 水環境 (22.8%)	38. 青少年育成 (20.9%)	24. 生活安定 36. 学校教育 (19.4%)

【定住意向別】

「医療」は全ての項目で1位となっている。また「自然環境」も「住みつづけたい」「住みつづけたいとは思わない」で2位となっている。

順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
住みつづけた	23. 医療 (30.0%)	3. 自然環境 (24.2%)	14. 雇用 (23.7%)	1. 水環境 (23.2%)	32. 防犯 (22.5%)
住みつづけたいとは思わない	23. 医療 (39.5%)	3. 自然環境 (27.4%)	36. 学校教育 (24.2%)	24. 生活安定 (22.6%)	1. 水環境 (21.0%)
どちらとも いえない	23. 医療 (38.2%)	14. 雇用 (26.3%)	32. 防犯 (26.0%)	36. 学校教育 (21.8)	8. 廃棄物 19. 交通基盤 (20.6%)